

Partial translation of cited Reference 6

JP Utility Model Application No.62-021251 (1987) (JP Utility Model Publication (Kokai) No.63-129471 (1988))

Published date: August 24, 1988

Application date: February 16, 1987

Applicant: System Maintenance Co.Ltd.

Title: Termite detecting device

2 Claim

A termite detecting device having an open top and a cylindrical or rectangular attracting material made of wood which has through-hole in the core, the material being set on a tubular body having circular or rectangular cross-section and bottom.

4. Brief Description of the Drawings

Figures 1 is a schematic sectional side view of the piece. Figure 2 is a schematic plain view. Figure 3 is a schematic cross-section view which shows the state that the termite detecting piece set under the ground.

1 top

2, 7 bottom

3 cylindrical body

4 center core

5 penetrating hole

6 attracting material

8 step

9 upper part of attracting material

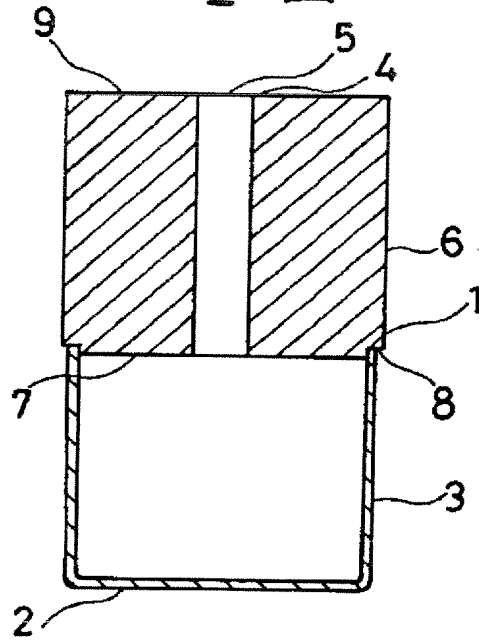
10 cover

G ground

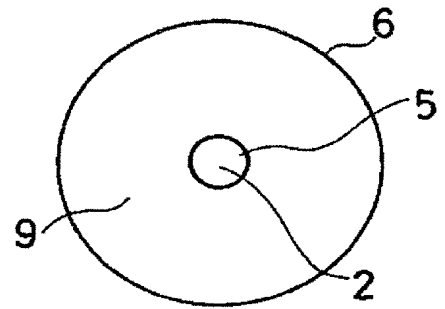
W water

図 面

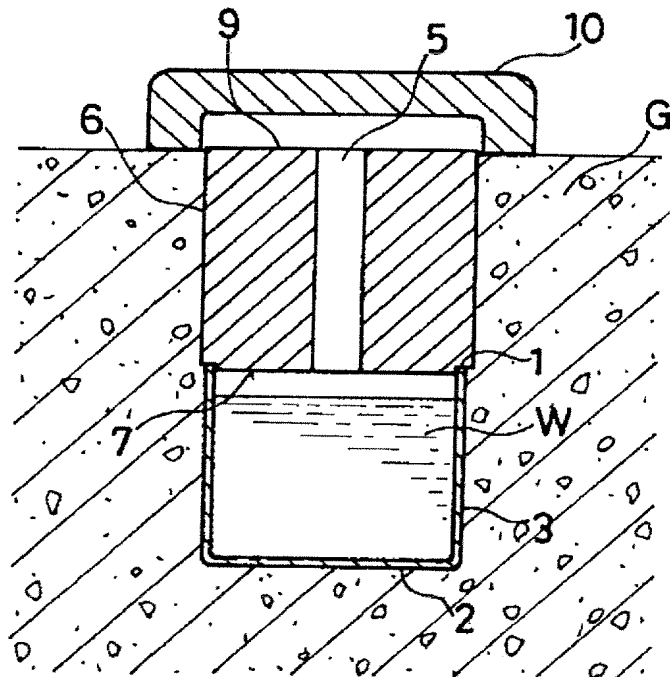
第 1 図



第 2 図



第 3 図



854

実用新案登録出願人

株式会社システムメンテナンス

実開 63-129471

公開実用 昭和63- 129471

PA05-144
reference 6

⑬ 日本国特許庁(JP)

⑭ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U)

昭63-129471

⑤ Int.Cl.⁴

識別記号

庁内整理番号

⑬ 公開 昭和63年(1988)8月24日

A 01 M 1/00

6838-2B

審査請求 有 (全 頁)

⑮ 考案の名称 白あり検出具

⑯ 実 願 昭62-21251

⑰ 出 願 昭62(1987)2月16日

⑱ 考 案 者 本 間 武 千葉県松戸市古ヶ崎4丁目3570番地

⑲ 出 願 人 株式会社 システムメ 東京都渋谷区宇田川町11-3 営研ビル
ンテナンス

明 細 書

1. 考案の名称 白あり検出具

2. 実用新案登録請求の範囲

上端部が開放され、横断面が円形又は四辺形状で底部を有する筒体の上部に、円柱又は角柱状で芯部に貫通穴を設け、材質が木質よりなる誘引体を着脱自在に取付た白あり検出具。

3. 考案の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

本考案は、木造建築構造物例えば家屋周辺や白ありが生息していると推定される地域周辺の地中に埋設して使用する白あり検出具に関するものである。

〔従来技術〕

白ありの検出具としては、本件出願人が開発し実用新案登録出願をした技術がある。これは地中に埋設すべき木質片と、該木質片上部に着脱自在に被覆する検出具等である。

〔考案が解決しようとする問題点〕

上記のように家屋周辺等に木質片を埋設し周辺

領域の白ありを誘引してこれを検出しようとする白あり検出具は、本件出願人が提案したものを除いては提案されていない。

また上記本件出願人が提案したものは木質片等の保水性等についてさらに改良すべき点があった。
〔問題点を解決するための手段〕

本考案の構成の要旨とするところは、上端部が開放され、横断面が円形又は四辺形状で底部を有する筒体の上部に、円柱又は角柱状で芯部に貫通穴を設け、材質が木質よりなる誘引体を着脱自在に取付た白あり検出具である。

筒体の材質は、モルタル・コンクリート又は合成樹脂等が適当である。又筒体の寸法は筒体が円筒状の場合を例にとると内径が100mm、高さが100mm程度で、誘引体もほぼ同じ寸法か、若干大きめの寸法である。

このように形成した検出具を地中に埋設し筒体内部に誘引体に設けた貫通穴より水を供給しておくと、この水が蒸発し誘引体底部に結露し、誘引体が木質であるので誘引体底部から誘引体内部に



水分が滲透し、誘引体は含水状態になる。なお、誘引体の上部を蓋体で覆ってもよい。

誘引体上部を蓋体で覆うと、誘引体が保護されると同時に、貫通穴より水分の蒸発を防止することができ、蓋体に結露を生じさせることができる。

〔作用〕

本考案は、上記のように構成したものであり、次のように使用する。

本考案の白あり検出具は、家屋や白ありの存在の可能性がある地域周辺の適当な地中に接置して周辺より家屋等に侵入しようとする白ありをその途中で誘引し、白ありの存在を確認するのに使用する。

この白あり検出具は多数用意し、家屋等の周囲を囲んで1 mから2 m間隔で配置するのが好ましい。

白あり検出具を前記のように配置しておくと、もし家屋の周辺に白ありが生息しており、これらが家屋に侵入しようとした場合には、その途中で誘引体に誘導されることになる。なぜなら、白あ

りの生存には、木質と水分が不可欠である為である。そうしてこれに侵入するので、定期的に誘引体上部の蓋体を取外し、さらに必要に応じて誘引体を筒体の上から引抜いて、誘引体自体又は誘引体の上にある蓋体に白ありが存在するか否かを点検すれば、白ありの存在を早期に発見することができる。白ありの存在が確認された場合には、直ちに対策を講じることによって被害を事前に防止することができる。

〔実施例〕

以下図面に基づいて本考案の実施例を説明する。

上端部 1 が開放され、横断面が円形で（第 2 図は円形の場合を示しているが四辺形でも良い）、底部 2 を有する筒体 3 の上部に、円柱状（第 2 図は円柱状の場合を示しているが角柱状でもよい。）の誘引体 6 を位置せしめ芯部 4 に貫通穴 5 を設ける。筒体 3 の上端部 1 と接する誘引体 6 の底部 7 は、誘引体 6 が筒体 3 に密着するように底部 7 の外側に段部 8 を形成してある。

この実施例では、以上のように構成したので、

次のように使用する。

この白あり検出具は、調査対象例えば家屋の周辺の地中Gに設置する。

第3図に示したように、筒体3の上に誘引体6を位置せしめて地中Gに埋設する。この場合誘引体上部9が地表面とほぼ同一になるようにする。その後貫通穴5より水Wを筒体3の内部にそそぎ込む。水Wが筒体3の内部に満水状態になると貫通穴5より水Wが溢れでる。この時注水を中止する。

さらに必要に応じて誘引体上部9の上を円盤状で底部に凹部を形成した蓋体10で覆う。

白あり検出具をこのように設置しておくと、調査対象である家屋等の周囲に白ありが生息していた場合には、誘引体6に誘引されて誘引体6に白ありが侵入してくる。

そこで定期的にこの白あり検出具を点検し、誘引体6や蓋体10の底部に白ありが存在しているか否かをチェックすれば対象領域に白あり生息の有無を検知することができる。



この白あり検出具の点検は、蓋体10を取りのぞき、必要に応じて誘引体6を引揚げることで簡単に行なうことができる。点検後はまた元にもどしておけば良い。なお、筒体3内部の水Wは上記点検の際追加しておく。

もし誘引体6に白ありが営巣しているか又は蓋体10の底部に白ありの存在が確認された場合には、周辺に白ありの生息が推定される訳であるから、早期に適切な駆除手段を講ずるべきである。

〔考案の効果〕

本考案によれば、筒体3内に常時水Wがあり、この蒸発により誘引体6はたえず水分を含んだ状態になるので白ありを効果的に誘引する。したがって極めて簡易な手段で、家屋周辺等の白ありの生息状況を検出することができる。

4. 図面の簡単な説明

図面は本考案の一実施例を示したもので、第1図は概略側断面図、第2図は概略平面図、第3図は白あり検出具を地中Gに設置した状態を示した概略断面図である。

1 …上端部

3 …筒体

5 …貫通穴

8 …段部

10…蓋体

W…水

2 , 7 …底部

4 …芯部

6 …誘引体

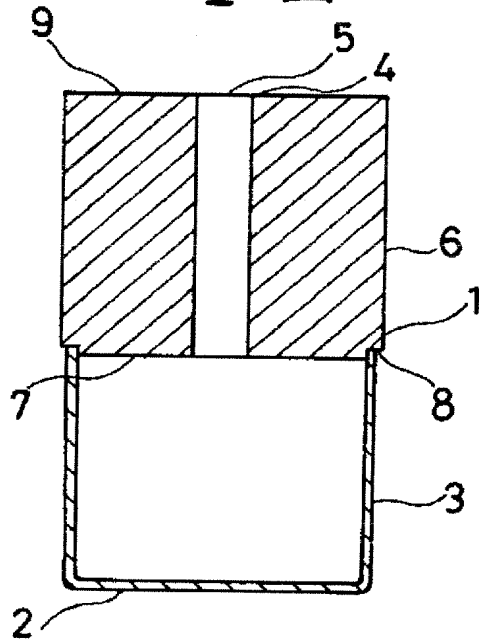
9 …誘引体上部

G …地中

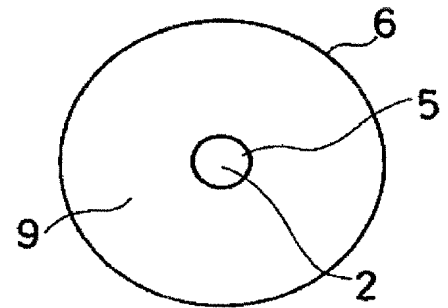
実用新案登録出願人 株式会社システムメンテナンス

図 面

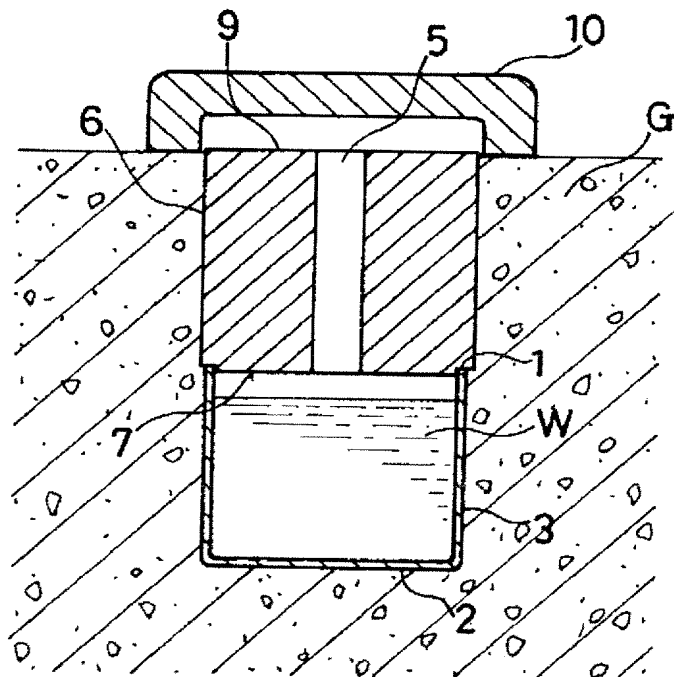
第 1 図



第 2 図



第 3 図



854

実用新案登録出願人

株式会社 システムメンテナンス

実開 63 - 129471